

萩から遠く離れた鑄銭司・大道（台道）地区で点々と「土」のある場所を変えながら、今まで数百年ずっと「大道土」を求め続けてきた土に対するこだわり。

鑄銭司・大道（台道）地区で点々と変わる「大道土」の採掘地を記した地図をみつけて、この土へのこだわりが、現在の萩焼の伝統と多様な作品を生んできたのだと感じています。

そんな 萩焼の土について調べ整理した一文です。

もっとも まだ この土の何がそんな魅力を引き出しているのかを調べるのはこれからです。

【インターネット「大道土」検索より、資料作成・整理に数多くのデータを使わせてもらった文献】

神谷雅晴 須藤定久 「萩焼とその粘土」 地質ニュース 563号 2001年7月 P46

www.gs.j.jp/Pub/News/pdf/2001/07/01_07_04.pdf

上記資料のほか インターネット検索で得たデータを色々資料作成につかわせていただきました。

■ 山口伝統工芸展を訪ねる 2009. 6. 5.

6月5日の午後、田中さんご夫妻に案内してもらって、山口伝統工芸展を山口県立美術館に訪ね、数多くの作品 「萩焼の今」を鑑賞することができました。

知らなかった萩焼の見方や作家でなければ解らぬ視点 そして、作品にこめられた独自の創作の技など 陶芸家の田中さんならではの解説に釘付け。本当に楽しい萩焼鑑賞でした。

気取りのない実用用途作品の中に、「萩」と「磁器」の間を自由な発想で行き来する田中講平さん

萩の奥深い「優雅」・「質感のある素朴な味」を大事にしつつ、

磁器の「透明感」「線・形」の美をも忘れず受け継いで、「萩」にも活かしてゆきたい

と確かな技術をベースに 常々新しい作品創作に挑戦する

今回 出展された作品は 田中さんオリジンの青白磁1点と伝統の萩に独自の新しい技法を取り込んだ萩2点の3点

田中さん渾身の本年の新作。 創造へのあくなき挑戦には いつも エネルギーをもらう。



第 32 回山口伝統工芸展 山口展 スナップ 2009.6.1.



青白磁円紋花瓶
近鉄松下百貨店賞受賞作



羽状文長方形皿



山月森土文大鉢

田中講平 出展作 3 点

出展作 3 点 左側の「青白磁円紋花瓶」が「近鉄松下百貨店賞」を受賞させていただきました

第 32 回山口伝統工芸展 田中講平 出展作品 2009 年 6 月

田中講平さんのホームページ より

■ 萩焼窯元 陶房葉月 田中講平 home page <http://www.k2.dion.ne.jp/>

田中講平 作品集 <http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/tnkafa4.htm>

〔田中康平さんのホームページには 素晴らし作品集などがあります。是非一度ご覧ください。〕

もう 功なった「萩焼」の重要無形文化財保持者（人間国宝）である作家の味わいの深い作品とその創造へのあくなき探求

また、新進作家の斬新な創作など本当に萩焼の多様性にビックリする展覧会でした。

ところで、金属材料屋の私にとっては、「この多様な作品群を作り出したベースには伝統の「土」があるだろう・・・」とふと萩焼の「土」が頭に浮かぶ。 聞かかじりですが、萩焼は知っていますが、原料の土についてはほとんど知らないなあ・・・と。

今回 萩焼について 頭に色々残っている間に萩焼の「土」について調べてみたい。帰りにまず 「大道土」の採取地を訪ねようと。

「萩焼の伝統技法」の一例

時代 時代の革新的技法から生まれ、萩伝統の技法のひとつになったもの
インターネット萩焼の伝統技法検索より整理

萩焼のはじまりは、文禄・慶長の役(1592～1597)で連れ帰られた朝鮮李朝の陶工によって萩城下の松本中之倉で開窯せられた萩藩の御用窯。

現在 萩焼の陶芸家・窯元は、萩焼発祥の萩・長門深川から山口・防府そして県内各地に広がっている。

そして、萩焼 380 年の伝統の中から、伝統工芸、現代工芸、前衛と多彩なジャンルの中で活動し、人間国宝、芸術院会員、前衛作家等々 数多くの陶芸家を輩出しています。

- **梅花皮** 井戸茶碗に見られる釉薬の割れ目の部分を出す萩焼の技の一つ
梅の古木に見られる木の膚がカサカサしている状態に似たもので、釉が粒状に固まったものをいい、これは釉が溶けそうになって縮れを起こした現象で、この 延びた風情が井戸茶碗の大きな特色ともなっている。
- **御本手** ホタル・モミジとも呼ばれる 砂や化粧がけによってオレンジ色の斑点を作ったもの
- **刷毛目** 刷毛の掛け方で、様々な模様。刷毛目を消さないように化粧がけをして焼成を行う手法
- **高台** 茶碗の胴や腰をのせている丸い輪の全体のこと。
高台には、丸い輪をつかって本体につけた「つけ高台」と、本体の土をへらで削ってつくった「削り高台」がある。
また、高台の輪の一部をかきとったものを切り高台、割り高台という。
萩焼には、この割り高台が多く用いられている。
- **焼締** 釉薬を使わずに焼成する方法。ワラに塩化ナトリウムを染み込ませ、器に巻きつけ焼成。
- **貫入** 萩焼をはじめ粗陶器と呼ばれる土ものに比較的好く見受けられる釉表面のヒビのこと
窯出しの冷却の際、素地と釉地釉薬の膨張率と収縮差の違いによっておこる。
- **窯変** 窯の中で炎に触れた部分の釉調が変化すること。



萩割高台茶碗 江戸時代前期



萩茶碗 江戸時代前期



萩十字文割俵形鉢 江戸時代前期



萩編笠水指 三輪休雪 1973 年



萩赤楽茶碗(1703)

三輪休雪(初代)



萩井戸形茶碗(江戸時代前期)

作者不詳



「萩割高台茶碗」(1974)

三輪休和(10 代三輪休雪)

■ 萩焼の主要原料の概要

萩焼の伝統的な作品は大道土に金峯土、見島土と産地・性質の異なる3つの原土を精製・ブレンドした土で成形され、文様がほとんどなく、透明釉の土灰釉か、白濁する藁灰釉（白萩釉）が施される。土精製の過程で除かれた粗砂を混ぜた鬼萩という土を用い、ざらついた質感を出す手法もある。

また、比較的低い焼成温度で焼きを止めるため、釉の内部に水分が浸みやすく、使ううちに釉色が多変することが多い。それは他の産地のものと比べて著しく、「萩の七化け」と呼んで人気が高い。

【萩焼の土 -大道土・見島土・金峯土（みたけつち）の採取地-】



「大道土」 瀬戸内海側の山口・防府の境あたりで取れる土

「金峯土」 萩の東方、阿武郡福栄村金峯より出る土

「見島土」 萩沖の日本海に浮かぶ島の土だと聞く。

そして、これらの土のブレンドの割合やさらにその土地の土を加えたり、作家や創作品それぞれに、創意工夫をこらして変化させてきたという。「やわらかい土の味わいを伝える質感」と使い込むほどに変化するこの「萩の七化け」はこの原料土のブレンドなくしては生まれない。

萩の伝統となった数々の技法に基づく、多種多様な作品群やそれを可能とした自由な創作・革新的な挑戦の気風もこれらの原料度が合ったからに違いない。萩から遠く離れた場所で採取された原料土が遠く運ばれて使われ続けてきた理由もここにあるのだろう。

特にブレンドのベースになる「大道土」の役割は大きいに違いない。

インターネット検索すると、その基本配合を（大道土7：金峯土3：見島土1）としているとの作家さんの記事や、金峯土の採取がほとんどできなくなって、金峯土をブレンドしないとの記事などこのブレンドは色々のようだ。

でも、私もそうなのですが、萩焼の作品や窯元は良く知られていますが、案外 その原料の産地やその特徴や役割については良く知られていない。

インターネットで調べた主要原料土のおおよその特徴は下記のとおりである。

● 大道土



防府市大道あるいは、山口市鑄銭司四辻等より発掘される白色で砂礫混じりの可塑性に富んだ土で、耐火度もあり、萩焼作陶のベースとなる土。

● 金峯土



萩市の東方、阿武郡福栄村金峯より出るもので、黄白のざらざらした一種のカオリン（粘土）。粘力はないが、耐火性が強い。

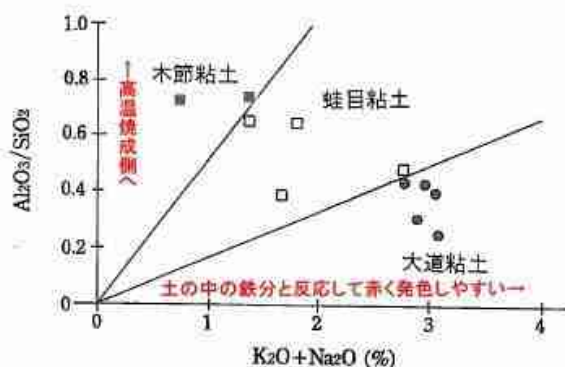
● 見島土



萩沖にある見島から産出される赤黒色の耐火度の低い火山系統の土である。大道土、金峯土に少量混ぜて使用される。

第2表 各試料の鉱物組成。◎はごく多量、○は多量、△は少量、±は微量、－は検出せず、を示す。

試料名	石英	カオリン	カリ長石	セリサイト	ギブサイト	赤鉄鉱
「大道土」 長沢原土1	◎	◎	○	△	－	－
長沢原土2	◎	○	○	△	－	－
長沢原土3	◎	◎	○	△	－	－
長沢陶土	◎	◎	△	○	－	－
金峯土	◎	○	○	△	－	－
見島土	○	○	－	○	±	○



第8図 大道土、木節・蛙目粘土の $(\text{Al}_2\text{O}_3/\text{SiO}_2) - (\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O})$ ダイアグラムへのプロット。

第3表 大道粘土ほかの化学組成・耐火度。SKは耐火度を示す。文献は工業技術連絡会議窯業連合部会編「日本の窯業原料」により1)は1978年版、2)は1992年版。

試料名	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	CaO	MgO	K ₂ O	Na ₂ O	Ig.loss	SK	文献
大道粘土(原土A)	67.99	0.45	21.02	1.25	tr	tr	2.65	0.20	7.00	27	1)
大道粘土(原土B)	70.50	0.36	18.58	1.46	tr	tr	2.89	0.28	6.17	31	1)
仁光寺粘土(−100mesh)	61.82	－	26.42	1.80	0.17	0.15	2.74	0.26	7.57		1)
仁光寺粘土(特級)	59.48	－	26.72	1.57	0.21	0.16	2.61	0.30	9.76		1)
仁光寺粘土(新採掘場)	60.57	－	27.31	1.72	0.16	0.19	2.53	0.24	8.04		1)
瀬戸本山加仙蛙目(水簾)	50.19	0.61	33.30	1.21	0.17	0.22	1.59	0.16	12.44	35	2)
土岐口白岩蛙目(水簾)	57.90	0.65	26.94	1.57	0.77	0.20	2.54	0.24	9.02	33	2)
苗木共立苗木蛙目(水簾)	49.69	0.46	32.66	1.31	0.26	0.31	1.05	0.30	13.79	35	2)
瀬戸品野蛙目(原土)	63.9	－	25.8	0.92	0.37	0.27	1.04	0.57	8.71	31	2)
瀬戸枝下山盛木節(水簾)	47.17	－	34.91	1.57	0.23	0.13	0.61	0.75	14.26	34	2)
瀬戸本山加仙木節(水簾)	47.37	－	34.41	1.10	0.16	0.25	0.64	0.08	14.91	36	2)

神谷雅晴 須藤定久 「萩焼とその粘土」より

【原料土に含まれる主要成分 一般概説】

カオリン	粘土鉱物の一種。その主成分はシリカ二酸化珪素 SiO ₂ 、アルミナ (Al ₂ O ₃)、水 (H ₂ O) 花崗岩のような長石に富む岩石が風化あるいは熱水変質を受けて出来る。
セリサイト	絹雲母 粘土鉱物の一種。 化学組成：(K _{0.62} Na _{0.36} Ca _{0.01}) (Al _{1.75} Fe(III) _{0.16} Fe(II) _{0.06} Mg _{0.04} Mn _{0.02}) (Si _{3.07} Al _{0.93}) O ₁₀ (OH) ₂ 化学組成は酸化物で表示すると SiO ₂ が最も多く、次いで Al ₂ O ₃ 、K ₂ O、Fe ₂ O ₃ となる。 熱水変質により形成された粘土鉱物で、水や樹脂中に絹糸状光沢を呈し滑性や被覆性に優れている。
石英	化学組成は二酸化ケイ素 (SiO ₂) 素地(きじ：本体)の乾燥および焼成による収縮を少なくする非可塑性原料
長石	長石は磁器を高温で焼くときに溶けた状態になって反応を進める大切な融剤。 陶磁器に使用される長石は カリ長石(正長石：理論組成 K ₂ O・Al ₂ O ₃ ・6SiO ₂)とソーダ長石(曹長石：理論組成 Na ₂ O・Al ₂ O ₃ ・6SiO ₂)。 カリ長石は熔融して高粘度のガラス質になるので薄い「やきもの」も曲がらずに作れる。 カリ長石が多くなるに従い高い温度になる。

■ 萩焼の主要原料土「大道土」の採取地 鑄銭司・大道を訪ねる

2009. 6. 6.



防府市西目山から 佐波川の西 台道周辺を眺める 右端 長沢池



周防鑄銭司跡より鑄銭司・台道を眺める

萩焼の主要原料土「大道土」の採取地 鑄銭司・台道を眺める 2009. 6. 6

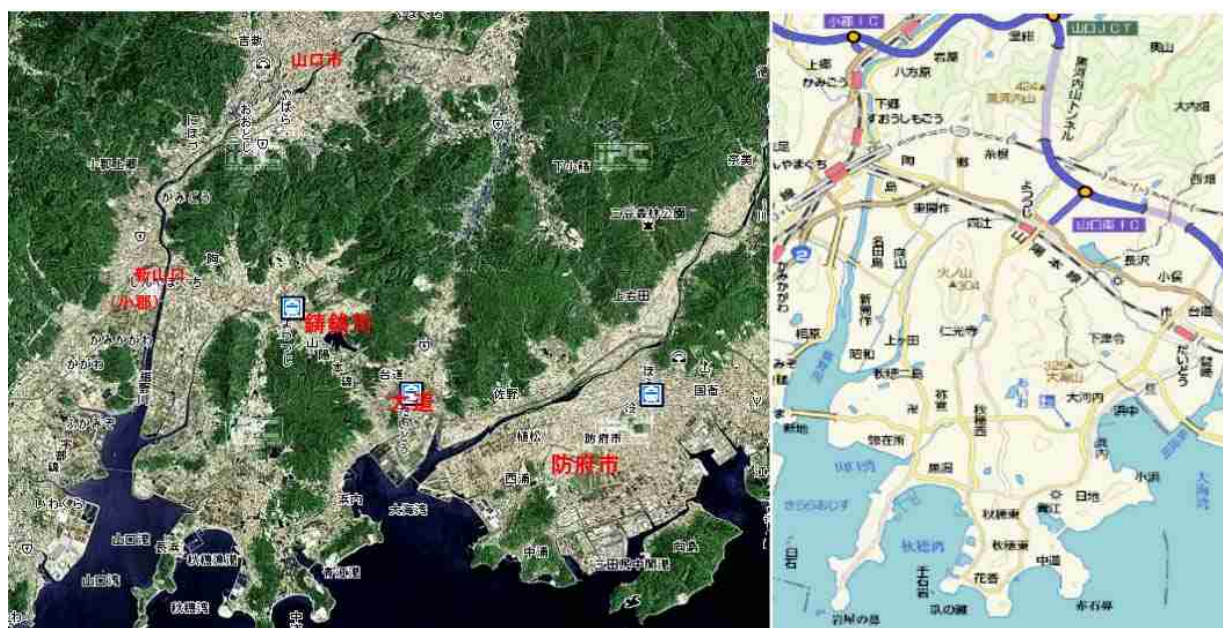
6月6日 美祢から神戸への帰り道、「大道土」の産地 防府市大道・山口市鑄銭司を訪ねました。

山口を訪ねるときには必ず通過する場所で 防府を過ぎて西へ 南北の小さな山塊に挟まれた平地部を国道・新幹線・高速道路が通過する防府と山口（小郡）の境のところの平地部が防府市大道・山口市鑄銭司&山口市陶で、この周辺の山麓のあちこちから掘り出される粘土が「大道土」。「この「大道土」なくしては萩焼の味がでない」といわれるほど重要な「土」であるが、この「大道土」は一箇所に存在する量が少なく、時代と共にその採取場所を点々と変えている。

日本一高価な陶土といわれながらもこの地の山麓周辺で採取されていることを今回初めて知りました。

また、鑄銭司の地名にあるとおり、この地では平安時代約140年間 日本で一番長く「銅銭」を作り続けた周防鑄銭司があったところで、その遺跡も残っている。

この地より、北東に少し入った所が 奈良時代 奈良の大仏の銅を産出した古代最大 最古の美祢市美東 長登銅山で、周防鑄銭司もなら平安時代にかけて 発行された古代最大の銅銭製造所であった。



萩焼の原料土「大道土」の産地 防府市大道・山口市鑄銭司周辺地図



南西側 周防大橋を向うに台道周辺



西側 長沢池周辺



山陽線の電車越しに大道周辺

防府市楞厳寺（りょうごんじ）山から大道方面を眺める

国道バイパスより 南側 大道周辺

美祢の IC から直接山陽自動車道に入らず、小郡から国道に出て長沢池の周辺「大道土」の採取地や鑄銭司跡を見に行つて、それから防府の IC に入って帰ることにする。場所は良く知っているし、まず道筋の「鑄銭司」「大道土」の採取地は JR「大道」の駅へ行けば判るだろうと車を走らせる。

美祢から約30分ほど 小郡で榎野川を東に渡つて 国道2号線にはいると山口市陶・鑄銭司 山陽道山口 IC 周辺。瀬戸内海の海岸近くであるが、海岸側にも岩山が連なつていて、海岸は見えない。

鑄銭司博物館への標識は見つけたのですが、国道左手に大きな長沢の池の端に出てしまう。

とにかく 池の奥正面に地図で印のある鑄銭司博物館へ周防鑄銭司跡の位置を教えてもらいに行く。



山口市陶から鑄銭司 国道2号線バイパス 山陽道山口南 IC 周辺



長沢池の北 池の端に鑄銭司郷土館がみえる 2009. 6. 6.

池を挟んで南北に小さな山々が連なる緑の気持ちのいい空間。この小さな山並みにはさまれた所が、鑄銭司・台道地区である。

郷土館の前から 目をぎよぎよ 山を崩している場所探すのですが、「土」を採取しているような場所は良くわからない。

郷土館には周防鑄銭司遺跡から出土した銅銭鑄造の遺物とこの地の幕末・明治の英雄大村益次郎の展示。

鑄銭司については、良くわかるのですが、萩焼にまつわる「大道土」については良くわからない。もう この地では萩焼・大道土はわすれさられているのだろうか……



長沢池の北の縁にある鑄銭司郷土館より南西側 長沢池南西側に連なる小さい山々



周防鑄銭司跡（写真合成） 南側 遺跡の向こうに大道の山が見える

周防鑄銭司遺跡はちょっと手前の積水ハウス山口工場の入口横と教えてもらう。

車で5分ほど引返して 北側 積水ハウスの工場の入口に接して、周防鑄銭司跡がありました。

といっても 原っぱが広がっているだけですが……。この山口には奈良の大仏の銅を産した日本最古 古代最大の銅山 「長登銅山」（美祢市美東町長登）があり、古代銅の主要産地なので、一度是非訪れたかった場所。



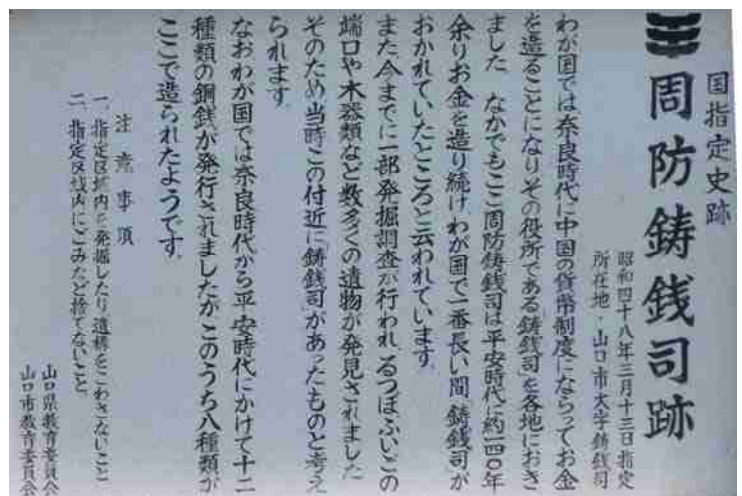
積水ハウス山口工場の入口の道に面して 南西側に広がる周防鑄銭司跡 2009.6.6.

周防鑄銭司跡の原っぱの向こうに、小高い山が連なっているのが見える。あの山の麓周辺が JR「大道駅」地名としては台道である。

国道・新幹線・高速道路が狭い平地を通り抜けて行くとは考えられぬのどかな緑の風景。

「どこかに山を崩している跡はないだろうか?」と目を凝らしてみるのですが、良くわからず。長年にわたって「大道土」が採取され、今も採取されているとしたら、どこかに痕跡があるはずですが……。

不思議に思いながら、10分ほど国道を東に走り、防府市に入り JR 大道駅の標識で南に折れて駅へ行く。



道から南に連なる小高い山を眺めながら台道の集落の中へ入るとその真ん中に JR 大道駅。無人駅ですが、きれいに整備された駅で タクシーが並んでいる。橋上の上にある改札口へ行ったり、駅前周辺など「大道土」の案内板がないかと探すのですが、良くわからない。

駅前で客待ちのタクシーの運転手さん達にきくのですが、知らぬという。日曜日なので 支所なども開いていない。

「昔 鑄銭司の郷土館の奥の方で採っていたらしい」とか「この南の海岸の方とちがうか???」とばらばらで、みんな確信がないという。

「あれだけ有名な萩焼で、しかも昔から使われている「大道土」なのに……」と本当に不思議で、ちょっと消化不良気味ながら、タイムリミット。今回は「大道土」界隈を歩いたし、今回はこれで満足しようと 国道に出て、防府から高速道路にあがってそのまま 帰ってきました。

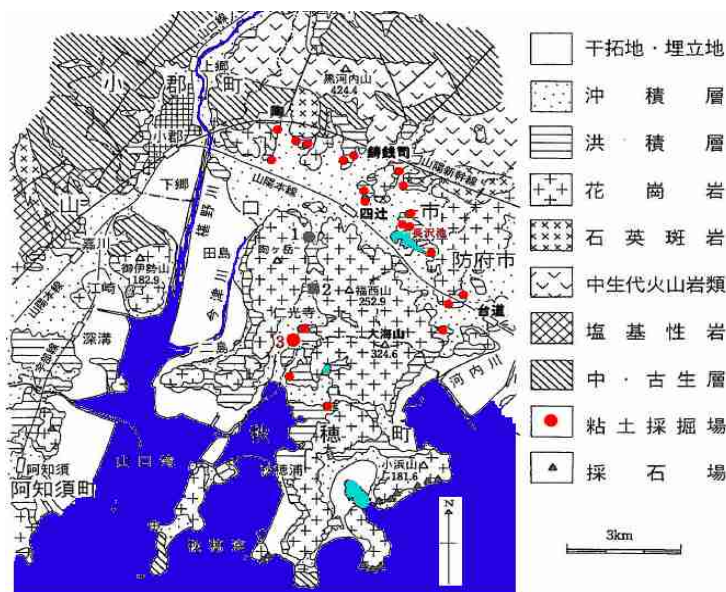
神戸の家に帰っても やっぱり気になって インターネットで「大道土」の採取場所の検索をして、下記の文献をみつけました。そして、この文献から 採取場所また、今回 採取場所を見つけられなかった不思議な謎も理解できました。

神谷雅晴 須藤定久 「萩焼とその粘土」地質ニュース 563号 2001年7月 P46

www.gs.j.jp/Pub/News/pdf/2001/07/01_07_04.pdf

以下この資料を参考にインターネット・google earth で調べた「大道土」の採取地です。

■ 資料「神谷雅晴 須藤定久 萩焼とその粘土」より整理した「大道の土」採取地



第5図 小郡～防府付近の地質図。
5万分の1表層地質図「小郡」・「宇部東部」を簡略化
1. ブレードザ興産の工場、2. 長沢陶土の工場、3. 長沢陶土の採掘場。

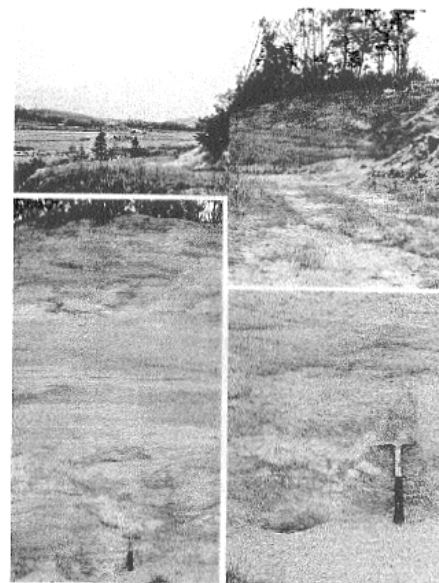


写真5 大道粘土の産状。採掘場の全景(上)。砂質部と粘土質部の不安定な互層からなる大道層の断面(左下)。粘土層から引き剥がされたような不規則な粘土塊も見られる(右下)。

1. 大道層はこの地域の洪積段丘構成し、花崗岩からなる山の山麓部に分布する層厚 13m 前後の堆積層で、礫層・砂礫層およびシルト質粘土層からなっている。このシルト質粘土層が萩焼の主原料として江戸時代から採取されてきた。
2. 大道粘土層は比較的薄い堆積層であるため、採掘場所は右図に見られるように、時代と共に変遷している。
3. これまでは地域北部の陶、鑄銭司および四辻・大道間の長沢池付近とその南部が主に採掘された。
4. 最近では山口市の南端の秋穂二島から秋穂町宮の旦付近で採取されている。

5. 現在 長沢陶土(有)によって採掘されている箇所は山口市の南端秋穂町との境界付近の丘である。この採掘切羽は高さ 7m 東西方向長さ約 2。この切羽の北側にも良質の粘土質砂礫層があり、この付近の大道層の厚さは 10m にも達すると推定されている。

(なお、現在「大道土」を採掘販売しているのは 長沢陶土を含めて3社だけとなっている。)

6. 萩焼の原料粘土「大道粘土」が産される地域は「大道」または「台道」と呼ばれてきた。地名は防府市「台道」 JR 山陽線駅名は「大道駅」この付近は文禄・慶長の役のときに「台道」と命名され、以後台道村と呼ばれた。台道村と切畑村との合併で大道村となったが、防府市編入されたときに地名として「台道」「切畑」の地名が残った。そしてその両方の地を代表する「大道」が駅名となった。



「大道土」の粘土層が薄く限られているため、採掘場所がこの地域内を点々と移動したため、採取後の地は転用され、その後わからなくなってしまう、土地の人も知らなくなっているようだ。

萩焼のみならず、その原料土にも長い歴史がある。

これほどまで萩の土にこだわり続けられたその理由についても また調べてみたいが、この土があつてこそ 萩焼伝統の多種多様な作品とみんなに愛される味が維持されてきた所以なのであろう。

上記資料で知った現在の「大道土」を採取している長沢陶土(有)の位置を google で調べるとちょうど長沢池の南東部に見える丘の中に分け入った所のような。



「大道土」を採取している長沢陶土（有）の位置

■ まとめ 萩焼の主原料「大道土」の採取地 鑄銭司・大道 Walk

きまぐれで、ふっと思いついて出かけた「大道土」の産地「大道」でしたが、知らなかった数々の萩の知恵が垣間見れて、本当に興味深かったです。また、萩焼の今に触れ、その作家達の新しい創作にかけた技法・技術の数々について田中さんの解説にも本当に驚きの連続でした。

萩焼の魅力は 愛でて 手で触って 使い込んで 直に肌ざわりと質感をかんじること。

そして、素朴でほんのり赤く色づいた中に「ホタル」 飛ぶ 萩の味と七変化と人は言う。

そんな器の下地の中に原料土の思いが、ひっそりこめられている。素人には知る由もないブレンドの魔術も・・・

萩焼の窯元を気楽に訪ねるのも また、もうひとつ萩焼を楽しむ魅力のひとつ。

周囲の自然をながめ、萩の器でコーヒーやお茶をいただきながら 焼き物の話に花を咲かせる。

そんな機会が器にさらに思い出を付け加えてくれる。

是非 一度 窯元・工房へも足をはこんでみられては・・・。

今回のwalkで 萩焼を見る目に当新しい見方が加わったのが、うれしい。次の機会が本当に楽しみです。

また、た、次回山口へ行ったときには 是非「大道土」の採掘現場を是非訪ねようと思っています。



第1図 萩市と周辺粘土産地の位置。②、⑤は第2図、第5図に示した範囲。

萩焼の主要原料「大道土」の里を訪ねた後 色々インターネットで調べながら

By Mutsu Nakanishi

【引用資料】 神谷雅晴 須藤定久「萩焼とその粘土」 www.gsj.jp/Pub/News/pdf/2001/07/01_07_04.pdf

【インターネット検索】 主要検索語：萩焼 原料土 大道 大道土 鑄銭司 など